

歯科口腔外科学

1 構成員

	平成14年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	2人（1人）
医員	7人
研修医	4人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	5人（0人）
研究生	4人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	2人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	29人

2 教官の異動状況

- 橋本 賢二（教授）（H1.8.1 現職）
 福田 廣志（助教授）（H3.7.1 現職）
 式守 道夫（講師）（S60.2.16 現職）
 三浦 隆男（講師）（H12.2.1 現職）
 山口 万枝（助手）（H4.4.1 現職）
 村井 睦彦（助手）（H10.7.1 現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成13年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（4編）
そのインパクトファクターの合計	8.28
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3編（3編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	8編（7編）
そのインパクトファクターの合計	0.733
(6) 国際学会発表数	5編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Wei Li, Wen Jie Zhang, Kazunori Ohnishi, Ichiro Yamada, Ryuzo Ohno, Kenji Hashimoto.:5-Aminolaevulinic acid-mediated photodynamic therapy in multidrug resistant leukemia cells. J of photochemistry and Photobiology B Biology. 60 : 79-86, 2001.
2. Tanaka H, Hashimoto K, Yamada I, Masumoto K, Ohsawa T, Murai M, Hirano T. : Interstitial Photodynamic therapy with rotating and reciprocating optical fibers. Cancer. 91 (9): 1791-1796, 2001.
3. T Yoneyama, M Yoshida, H Mukaiyama, H Okamoto, K Hoshiba, S Ihara, S Yanagisawa, S Ariumi, T Morita, Y Mizuno, T Ohsawa, Y akagawa, K hashimoto, H Sasaki. : Oral care reduces pneumonia of elderly patients in nursing homes. J Am Geriatr Soc. 2001.
4. 大澤孝行, 福田廣志, 村井睦彦, 山口万枝, 式守道夫, 橋本賢二 : 歯科外来患者における他診療科からの処方薬剤に関する実態調査. 日本口腔診断学会誌, 44 (2): 334-340, 2001.
5. 田中秀生, 山田一郎, 増本一真, 村井睦彦, 山口万枝, 式守道夫, 橋本賢二 : 組織内照射法による光線力学療法の適応拡大に関する基礎研究, 日本レーザー歯学会雑誌, 12:92-96, 2001.
6. 大和田和学, 式守道夫, 増本一真, 村井睦彦, 田中秀生, 福田廣志, 橋本賢二 : 当科における外来患者の感染症の実態調査, 日本口腔診断学会雑誌, 15 (1): 31-34, 2002.

インパクトファクターの小計 [8.276]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 楠威志, 西田升三, 沖田有弘, 岸本誠司, 中谷宏章, 三浦隆男, 小橋和男, 村田清高, 戸村隆訓 : 頭頸部扁平上皮癌の Fas リガンド免疫染色. 耳鼻と臨床, 47 (5): 367-373, 2001.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大澤孝行, 村井睦彦, 橋本賢二 : 口腔軟組織に対するレーザー応用. Quintessence 2001別冊 (歯科用レーザー・21世紀の展望 パート 1) 188-190, 2001.

2. 村井睦彦：歯科口腔外科領域でのレーザーの応用．歯界展望増刊号，208-209, 2001
3. 橋本賢二：口腔癌の診断と治療．Quintessence 2001 別冊（歯科用レーザー・21世紀の展望 パート 1）185-187, 2001.
4. 橋口邦夫, 橋本賢二：雷公藤と Hansen 病．医学の歩み，200 (8): 632-633, 2002
5. 橋本賢二, 山田一郎, 田中秀生, 村井睦彦, 増本一真, 山口万枝, 式守道夫：PDT（光化学療法）実施上の問題点とその対策．日本レーザー歯学会誌，13 (1): 5-10, 2002
6. 橋口邦夫, 橋本賢二：病院の起源．日本医事新報，no.4046, 57-59, 2001

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋本賢二, 山口万枝：病巣感染．デンタルハイジーン別冊：94-95, 2001
2. 橋本賢二：歯科衛生士が全身疾患を知る意義．デンタルハイジーン別冊：6-15, 2001
3. 橋本賢二：資料編．デンタルハイジーン別冊：130-141, 2001

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大浦健宏, 村井睦彦, 田中秀生, 丸山智, 式守道夫, 橋本賢二：両側性唇顎口蓋裂を伴ったトリソミー症候群の 1 例．日本口腔外科学会雑誌，47 (4): 270-272, 2001.
2. 大浦健宏, 村井睦彦, 田中秀生, 鈴木浩之, 橋本賢二, 三浦克敏：顎下腺原発基底細胞腺癌の 1 例．日本口腔外科学会雑誌，47 (5): 297-300, 2001.
3. 豊田博紀, 山口万枝, 大澤孝行, 村井睦彦, 福田廣志, 橋本賢二：顎下部にみられた唾液腺管癌の 1 例．日本口腔外科学会雑誌，47 (6): 346-349, 2001.
4. 山口万枝, 大長珠美, 大澤孝行, 橋本賢二：口腔内に腫瘤形成が見られ炎症性疾患を疑った悪性リンパ腫の 1 例．日本口腔診断学会雑誌，14 (1): 153-156, 2001.
5. 鈴木真幸, 山口万枝, 小松寿子, 福田廣志, 橋本賢二：血管塞栓術が奏効した下顎骨に発生した脈瘤性骨嚢胞の 1 例．日本口腔科学会雑誌，50 (4): 249-252, 2001.
6. 山口万枝, 橋本賢二：薬物アレルギーを伴う顎関節症患者の治療にソフトレーザーが有用であった 1 例．Quintessence 2001 別冊（歯科用レーザー・21世紀の展望 パート 1）182-184, 2001.

7. 宇佐美由紀, 橋本賢二 : 線維性骨異形成症の長期経過症例. はあもにい 1, 2001.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Onizawa Kojiro, Fukuda Hiroshi, Yoshida Hiroshi, Iijima Tatsuo. : Surgical treatment for primary oral malignancy with pulmonary metastasis. Report of 4 cases. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery. 59 (1): 101-113, 2001.

インパクトファクターの小計 [0.733]

(6) 国際学会発表

1. Okabe A, Ohno K, Toyoda H, Yokokura M, Sato K, and Fukuda A. Expressional changes in the mRNAs for cation-Cl⁻ cotransporters and a voltage-dependent Cl⁻ channel in the rat hippocampus after amygdala kindling. 31th Annual Meeting, Society for Neuroscience, 11/9-16/2001, San Diego.
2. Toyoda H, Ohno K, Okabe A, Ikeda M, Sato K, Hashimoto K, Nakahara D, and Fukuda A. GABA changes its action from inhibitory to excitatory in association with KCC2 downregulation after facial nerve transection. 31th Annual Meeting, Society for Neuroscience, 11/9-16/2001, San Diego.
3. Okabe A, Toyoda H, Yamada J, Shimizu-Okabe C, and Fukuda A. (2002) Changes in expression of the mRNAs for cation- Cl⁻ cotransporters and a voltage-dependent Cl⁻ channel in the rat brain after amygdaloid kindling. The 28th NIPS International Symposium "Inhibitory Neural Transmission in the Brain Structure and Function." February, Okazaki.
4. Ikeda M, Toyoda H, Okabe A, Hotta Y, and Fukuda A. (2002) Differential development profile of the GABAergic action and Cl⁻-homeostasis in the rat visual cortex and the dorsal lateral geniculate nucleus. The 28th NIPS International Symposium "Inhibitory Neural Transmission in the Brain Structure and Function." February, Okazaki.
5. Yamada J, Okabe A, Toyoda H, and Fukuda A. (2002) Mechanisms of GABA_A receptor-mediated excitation in the immature neocortical neurons studied by using gramicidin-perforated patch-clamp recordings and single cell RT-PCR. The 28th NIPS International Symposium "Inhibitory Neural Transmission in the Brain Structure and Function." February, Okazaki.

4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (130 万円)
(2) 厚生科学研究費	0 件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件 (万円)

(1) 文部科学省科学研究費

式守道夫 (代表者) 基礎研究 (C) 「制吐剤の動注化学療法に及ぼす影響に関する基礎的研究」
130 万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	平成 13 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	6 件
(3) 学会座長回数	8 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	23 件

(2) 国際・国内シンポジウム発表

1. 式守道夫 (2001) 頬骨骨折の Treatment Guideline, 第 3 回口腔顎顔面外傷研究会, 6 月, 埼玉
2. 福田廣志 (2001) 歯科口腔外科領域におけるレーザー治療と安全対策, 第 22 回日本レーザー医学会総会, 11 月, 金沢
3. 田中秀生 (2001) PDT におけるレーザー照射条件と組織透過性の相関に関する基礎研究, 第 22 回日本レーザー医学会総会, 11 月, 金沢
4. 山口万枝 (2001) 歯原性腫瘍 (エナメル上皮腫), 第 33 回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 9 月, 長崎
5. 村井睦彦 (2001) 口腔扁平上皮癌の光診断, 第 44 回日本口腔科学会中部地方会, 9 月, 岐阜
6. Mutsuhiko Murai (2001) Current Application of Laser in Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, 14th World Congress of International Society for Laser Surgery and Medicine, Aug, Chennai.

(3) 座長をした学会名

橋本 賢二 第 33 回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会

橋本 賢二 第 11 回国際光線力学学会日本支部研究会

橋本 賢二 第3回口腔顎顔面外傷研究会
 橋本 賢二 第11回日本顎変形症学会総会
 橋本 賢二 第11回日本有病者歯科医療学会総会
 橋本 賢二 第55回日本口腔科学会総会
 橋本 賢二 第26回日本口腔外科学会中部地方会
 橋本 賢二 第46回日本口腔外科学会総会

(5) 役職についている学会名とその役割

橋本 賢二 日本歯科薬物療法学会評議員
 橋本 賢二 日本有病者歯科医療学会評議員
 橋本 賢二 日本顎変形症学会評議員 編集委員
 橋本 賢二 日本顎顔面補綴学会評議員
 橋本 賢二 (社)日本口腔外科学会評議員
 橋本 賢二 日本レーザー医学会評議員 理事
 橋本 賢二 日本レーザー歯学会評議員 理事 編集委員長
 橋本 賢二 日本小児口腔外科学会評議員 理事
 橋本 賢二 口腔病学会評議員
 橋本 賢二 日本口腔腫瘍学会評議員
 橋本 賢二 日本臨床電子顕微鏡学会評議員
 橋本 賢二 日本口腔粘膜疾患学会評議員
 橋本 賢二 日本咀嚼学会評議員
 橋本 賢二 日本頭頸部腫瘍学会評議員
 橋本 賢二 日本口腔科学会評議員
 橋本 賢二 日本口腔顎顔面外傷学会評議員 理事長
 橋本 賢二 横浜口腔顎顔面外科学会評議員 理事
 橋本 賢二 日本口腔インプラント学会評議員
 橋本 賢二 日本顎関節学会評議員
 橋本 賢二 静岡県口腔インプラント研究会顧問
 橋本 賢二 東海頭蓋顎顔面人工材料研究会評議員
 福田 廣志 東海頭頸部腫瘍懇話会幹事
 村井 睦彦 日本レーザー歯学会幹事
 村井 睦彦 日本口腔顎顔面外傷学会幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成13年度
学術雑誌編集数	5件

1. 橋本賢二 日本レーザー歯学会編集委員長 (13巻1号, 2号)
2. 橋本賢二 日本顎変形症学会編集委員 (11巻1号, 2号, 3号)

9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	1 件

(3) 学内共同研究

福田敦夫（第一生理）顔面神経障害による Cl⁻ ホメオスタシスと関連遺伝子発現変化。

10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞（学会賞等）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

HpD・エキシマダイレーザーを用いた PDT の臨床応用（学内共同研究）

目的：本法は表在性の口腔癌・口腔前癌病変に有効なことが判ったので、さらに進行した癌に対して組織内回転照射式 PDT の臨床応用を実用化することを目的とする。

概要：深部に浸透した癌組織の中にマイクロセレクトロンチューブを刺入し、そのチューブのなかにファイバーを通し回転させながら内部からレーザー光を照射する PDT の開発。

目的の達成度：進行舌癌 4 例に実施し、3 例で著効、1 例は深部の照射不足で再発。症例を増やし、「高度先進医療」を申請する予定。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

進行舌癌に対する組織内回転照射式 PDT の開発（学内共同研究）

本法により、従来表面照射の場合光の深達度から表面より 7-8 mm とされていた PDT がより深部まで浸潤した癌にも適応できることが分かり、組織内刺入法や照射法などの改良により、適用部位や臓器などが拡大でき、機能と形態が温存できる PDT の臨床応用の可能性が広がった。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

近紫外線励起固有蛍光を用いた癌の診断

研究の独創性：近年光感受性薬剤を用いた診断（PDD：PhotoDynamicDiagnosis）はいろいろな施設で行われるようになってきたが、薬剤を用いない自家蛍光を利用する研究は、現在国内・外を問わず行われていない独創的な研究である。これらの研究は CANCER に掲載されており、国際的にも認知されたものと考えている。今後、ポルフィリンと癌の関係を継続して検討することにより、臨床各科での応用も可能となり、幅広く活用されるものと考えられる。

進行癌に対する組織内刺入回転照射式 PDT の開発（学内共同研究）

PDT は光感受性薬剤を静脈注射後、48-72 時間後にレーザー光を患部に照射する癌の治療法であるが、光の組織深達度から照射表面より 7-8 mm が治療の限界とされていたが、臨床で取り扱う癌は進行したものが多く現状の PDT では適応に限られること、PDT の形態と機能を温存できるという特徴を活かすのであれば、進行癌も適応となるような新しい PDT の方法を確立する必要があることなどから、動物実験での成果をふまえ、臨床応用できるように本学の倫理委員会に諮り、組織内刺入回転照射式 PDT を臨床応用し良好な結果を得ている。国内では、組織内照射はまだ研究段階であるが、海外ではいろいろと試みられており、注射針などを刺入し中にファイバーを通し照射する方法が中心で、本法のようにファイバーを回転させ全周に渡り万遍なく照射する方法は未だ行われていない。ファイバーの刺入法に改良の余地があり、この問題を解決できれば、舌以外に膣・肝・脳・前立腺などの実質臓器の悪性腫瘍に幅広く利用でき、応用範囲は飛躍的に広がるものと思われる。

15 新聞、雑誌等による報道